コミュニティセンター化構想の進ちょくは

町長　2地区で経営主体の立ち上げにとりくんでいる

山田　仁議員

なぜ、コミュニティセンター化か

山田　**この改革は、どこに重点を置いた改革か。**

町長　少子高齢化により、地域コミュニティーの弱体化が懸念されている。公民館を改革するということではなく、これまでの地域づくりをふりかえって課題を解決すべく、新たな形で地域住民が主体となり、経営感覚を持ちながら地域づくりの核となるコミュニティセンターを立ち上げていただきたいと考えている。

山田　**今までの公民館をどう評価しているのか。**

教育長　公民館設置以来、学習を仕組む機関として一定の役割を果たしてきたと総括している。

山田　**地域における取り組みの進ちょく状況を問う。**

町長　十王、鷹山地区において、検討委員会を組織して取り組んでいただいている。

課題が多いのでは

山田　**経営主体の資格要件はどうか。また運営方法など課題が多いのでは。**

企画室長　団体の法人格は、規則上は問わないと理解している。様々な課題については、コミュニティセンター化の中で議論していただくことになる。

山田　**地区公民館と分館の関係はどうなるのか。**

企画室長　新たな条例の中で位置づけていくことになるが、対等な立場で連携していただきたいと考えている。

米の減反政策廃止への対応は

山田　**昭和45年から続いた減反政策の廃止、交付金減額の方針が出たが、どう受け止めているのか。**

町長　水田農業を基盤とする本町農業のあり方を大きく左右する可能性があり、特に、中山間地域への影響が大きいと懸念している。

山田　**プロジェクトチームなどで対応する考えはないのか。**

町長　まずは、既存の組織の中での取り組みが重要であると考える。国・県の動向を見守りながら、総合的に検討したい。

荒砥地区新春交流会